ケア対応　実践計画

担当：

【患者情報】

氏名	A さん
年齢・性別：	85歳　男性
診断名：	大腿骨骨折
既往歴：	なし
意識レベル：	清明
言語理解・表出：	良好
認知機能：	問題なし
利き手：	右
生活歴：	バックを作る職人　４０歳代で転職し工場に勤務（鉄鋼を切断する力仕事）
家族	夫婦２人暮らし　娘２人は結婚して同県内に在中

【患者の治療に対する要望・意向について】

1日も早く、自分で歩けるようになりたい。 他人になるべく迷惑をかけたくないので身の回りのことが１人でできるようになりたい。

【経過】

85 歳、男性は同じ世代の友人から歩く速度がいつもや早いと褒められていた。

ところが夜中トイレに起きた時、階段を踏み外し転倒し大腿骨頸部にひびが入り救急病院に入院となった。安静のため寝たきりの生活となった。A さんは体力にも、歩行にも自信があったため、転倒したことにかなりショックを受けていた。食欲もなく点滴治療が行われたが、数日後に肺炎を併発してしまった。そのためリハビリをすることなくそのまま経過した。家族がこのままでは寝たきりになってしまうと心配し肺炎が回復したらリハビリしてほしい医師に依頼した。しかし救急病院ではリハビリ体制がないといわれた。

ようやく熱が下がり、状態が安定したところで希望していたリハビリ病院へ転院となった。A さんは、体力が回復すると、リハビリが開始された。はじめは廃用症候群が進んでいたため、思うようにリハビリが進まなかった。また転ぶのではないかと不安があった。

ワークシート①

①転倒不安の症例検討

１：この症例情報を読み、どのような関わり方をすることが必要か考えましょう。
（特に、心理面を中心に考えてみましょう。）

２：この症例に対して、どのように対応したらよいか考えましょう。

ワークシート②

②日常生活での工夫

1-Q1:ご本人にとっての“自立”とは、何でしょうか？皆さんで考えてみましょう。

Q2:あなたが担当になった際に、病室や居室で過ごしている際などにできる、症例への対応を考えてみましょう。

Q1：自立とは？
Q2：病室や居室で過ごしている症例への対応

2：その際の起こりうるリスクは何でしょうか？その点も考えてみましょう。

ワークシート③

③レクリエーションの内容

1：症例やその他の人へデイルームで、レクリエーションを行うことになりました。
別紙の用紙の運動を用いて、レクリエーションを企画してみましょう。
また、可能であれば、曲などを用いて、実践してみましょう。

タイトル：
対象者人数：
時間：
スタッフ人数：
内容：

本教材は、文部科学省の教育政策推進事業委託費による委託事業として、≪学校法人敬心学園　職業教育研究開発センター≫が実施した令和7年度「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育（リ・スキリング）推進事業」の成果物です。